

バリューチェーンを通じた 食資源の有効活用

本日の内容；











1. 社会課題への向き合い方
2. フードロスの捉え方
3. 取り組みのご紹介
4. フードロス削減に向けた課題

2019年3月27日
キューピー株式会社
広報・CSR本部 C S R 部
石橋 弘行

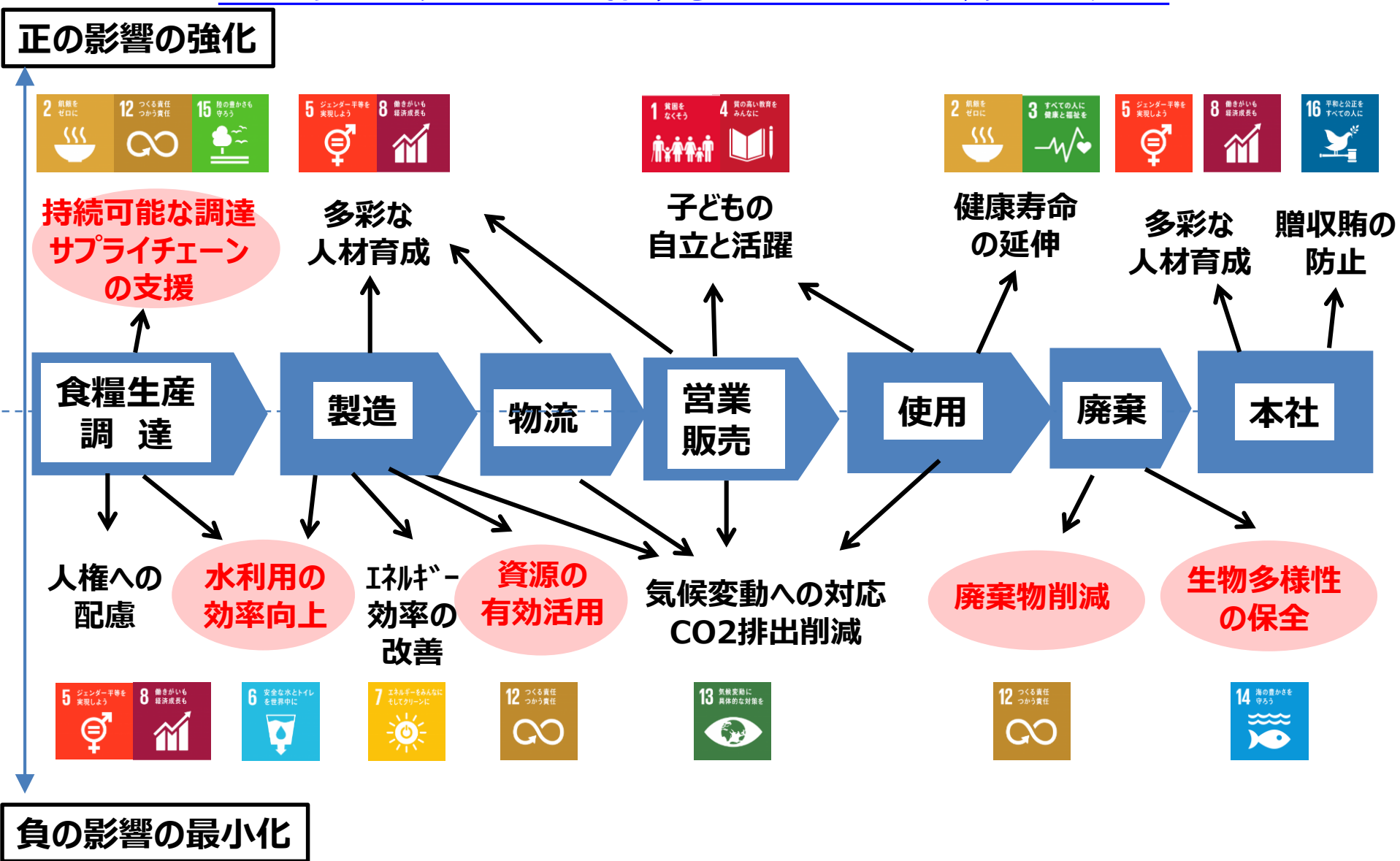
CSRの基本的な考え方

私たちはグループ理念と規範を遵守し
持続可能な社会の実現に貢献するとともに
グループの持続的な成長の基盤として
CSR活動を推進します

2018.5策定

重点課題	私たちの想い	SDGsとの関連づけ
健康寿命延伸への貢献	高齢になっても元気で過ごせる社会に貢献します	 
子どもの心と体の健康支援	食を通じて子どもの心と体の健康を支え、 未来の活躍を応援します	 
資源の有効活用と持続可能な調達	自然の恵みに感謝し、 地球の持続可能性に配慮します	  
CO ₂ 排出削減(気候変動への対応)	地球温暖化防止の実現に向け、 CO ₂ 排出削減に取り組みます	
ダイバーシティの推進	理念に共感するグループの一人ひとりが、互いを受容し、 学びあい、持続可能な社会とグループの成長をめざします	 

<バリューチェーンにおけるSDGsのマッピング>



1-③. 社会課題への向き合い方 サステナビリティ目標

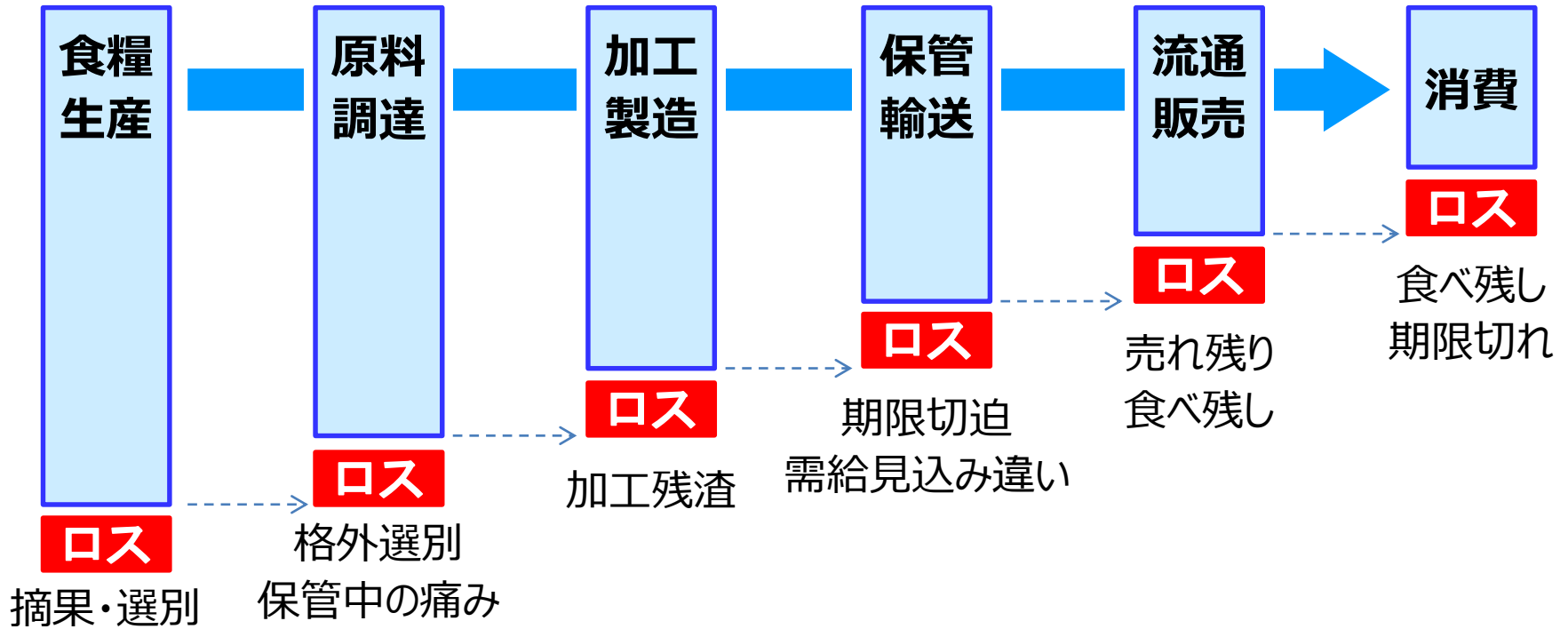
重点課題	指標
健康寿命延伸への貢献	サラダとタマゴのリーディングカンパニーとして ・1日当たりの野菜摂取量の目標値350gの達成に貢献する。 ・たんぱく質の摂取に貢献するために、卵の消費量アップを推進する。
子どもの心と体の健康支援	・2030年までに、グループの食育活動などで接する子どもの笑顔の数を、100万人以上にする(2019年からの累計)。
資源の有効活用と持続可能な調達	・グループで利用する主要な野菜の未利用部について、2021年までに30%、2030年までに90%以上を有効活用する。 ・商品廃棄量を2021年までに25%、2030年までに50%削減する(2015年対比)。
CO2排出削減	・グループの年間のCO2排出量について、2021年までに7.5%、2030年までに20%削減する(2013年対比)。
ダイバーシティの推進	・女性管理職比率を、2021年までに12%、2030年までに30%にする(キューピー単体)。

2. バリューチェーンにおけるフードロスのイメージ

←-これまでの食品メーカー-→

※「量」をイメージしたものではありません

←-これから食品メーカー-→



食料ロス

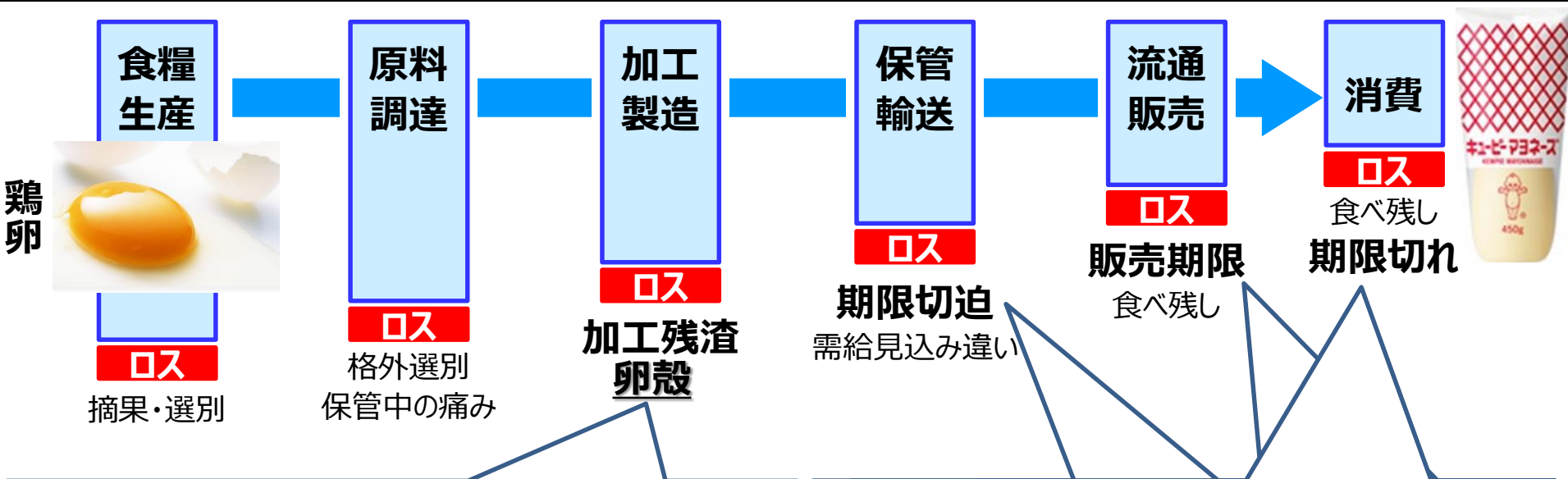
フードロス

食料廃棄

食資源のムダ遣い ⇒ 資源枯渇

「食」のバリューチェーンが 持続不可能 に...

3. 私たちの取り組み 事例①



<卵殻の有効利用>

◆ 土壌改良剤として

畑に施肥し高品質の野菜を



◆ Ca強化原料として

食品やサプリメントに



◆ 石灰の代替品、摩擦材として



チョーク



タイヤの
滑り止め

<賞味期間の延長>

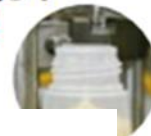
POINT1
「アルミシール」による
外部酸素の遮断



POINT4
酸素を通しにくい
「多層容器」

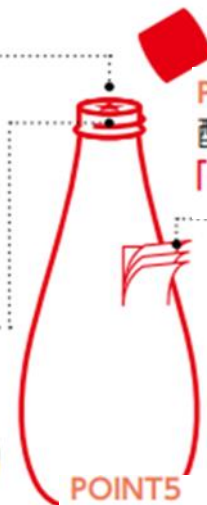


POINT2
製品中の酸素を減らす
「口部の窒素置換」

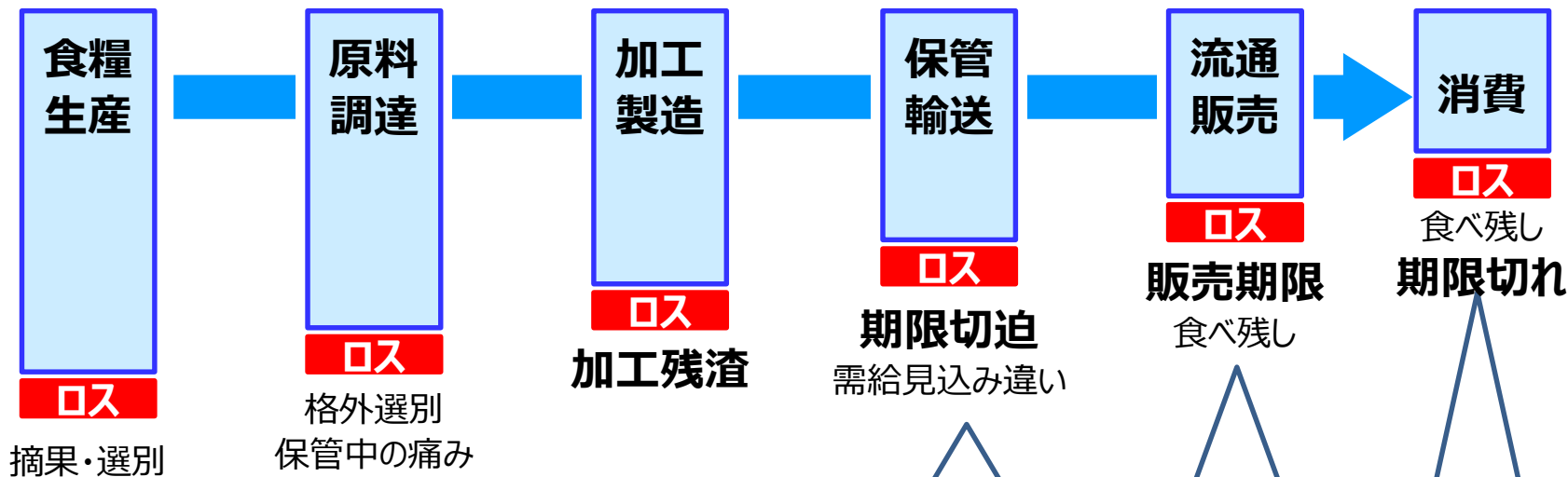


POINT3
生産中に酸素を混ぜない
「真空ミキサー」

POINT5
植物油から酸素を
限りなく取り除いた
「おいしさロングラン製法」



3. 私たちの取り組み 事例②



<年月表示>

流通から店頭までのオペレーションの簡素化



※併せて賞味期間を延長

- 介護食「やさしい献立」シリーズ47品目
- サラダクラブ「素材パウチ」シリーズ 6品

<消費期限延長>

加工日 + 4日間 → 加工日 + 5日間

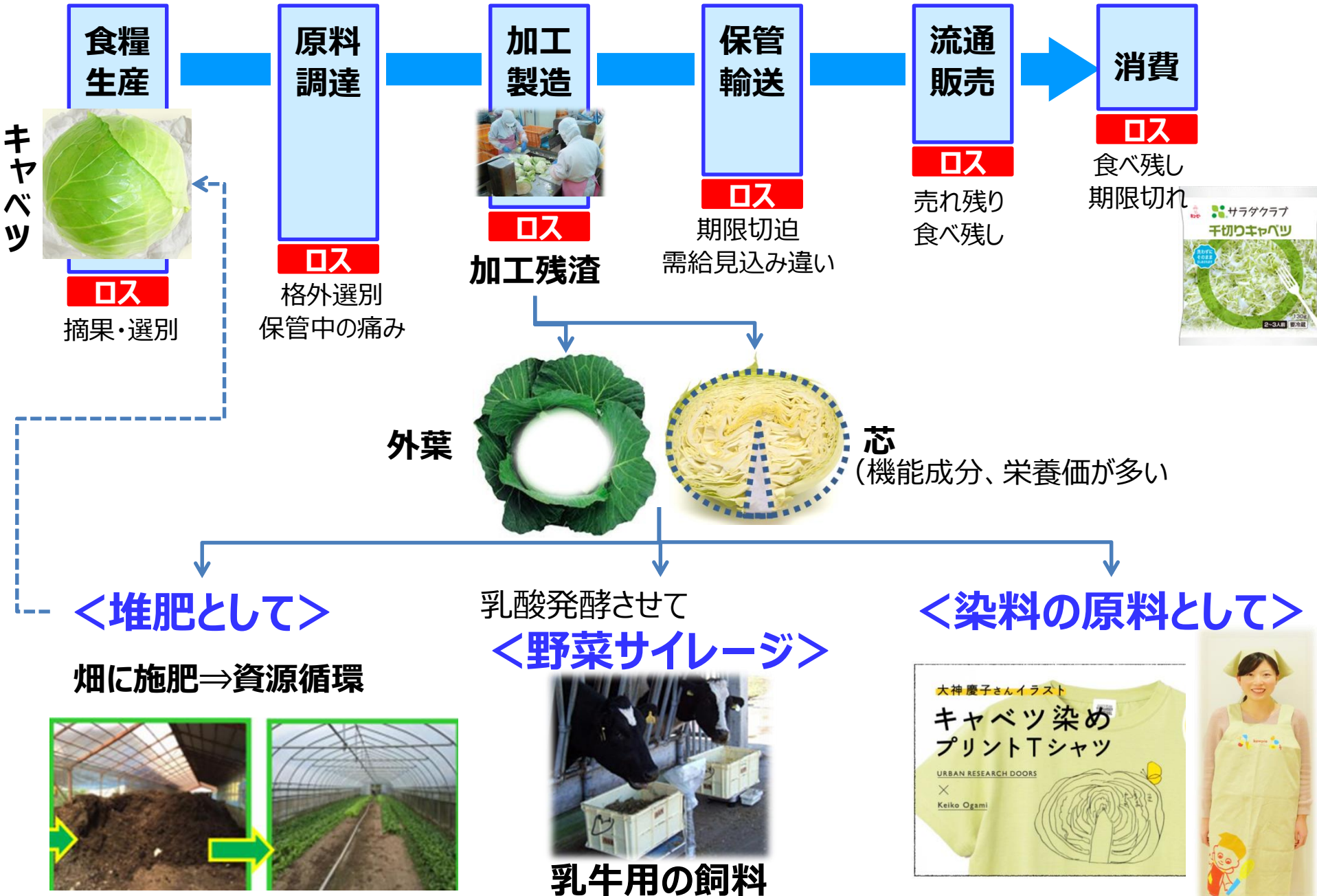
「野菜にやさしい製法」

「10℃以下の低温流通管理」



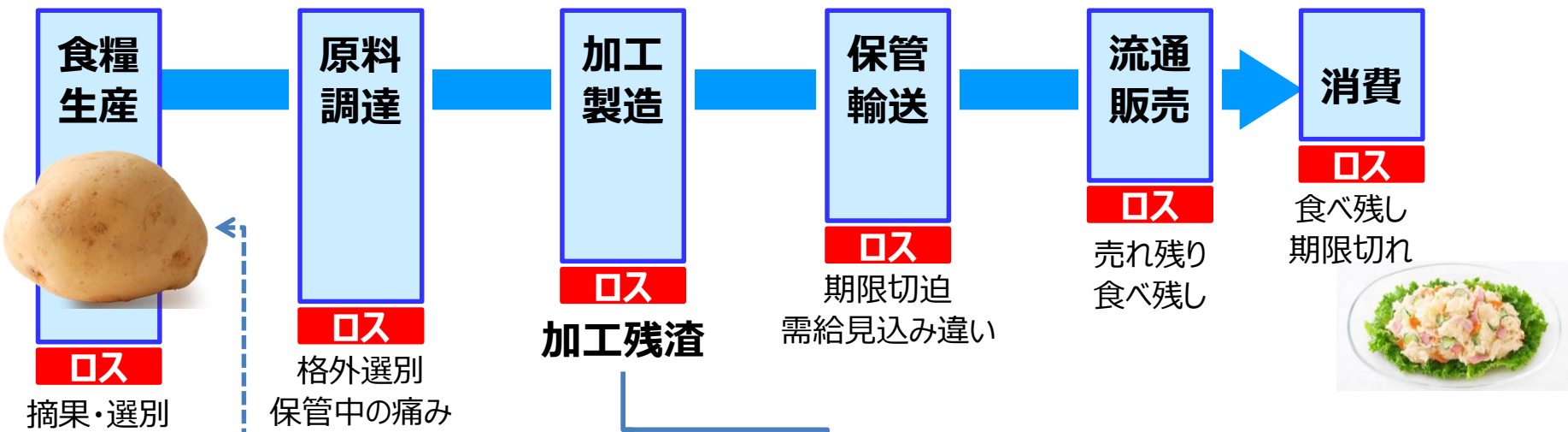
- サラダクラブ 千切りキャベツ
- サラダクラブ 千切りキャベツビッグパック

3. 私たちの取り組み 事例③



3. 私たちの取り組み 事例④

じゃがいも



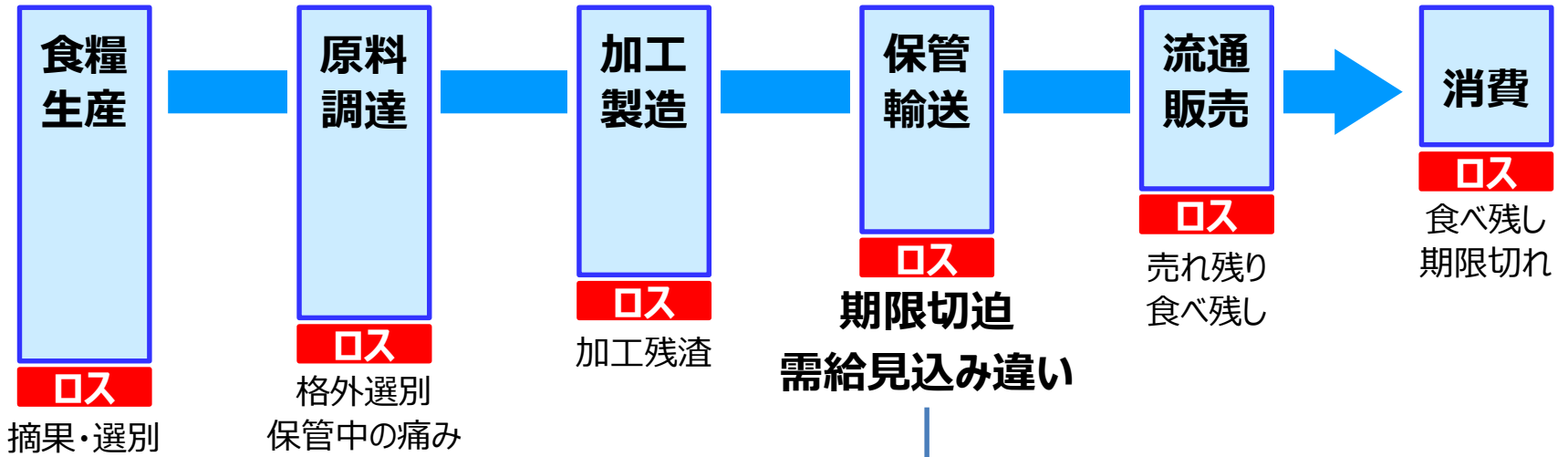
<堆肥として>

畑に施肥⇒資源循環

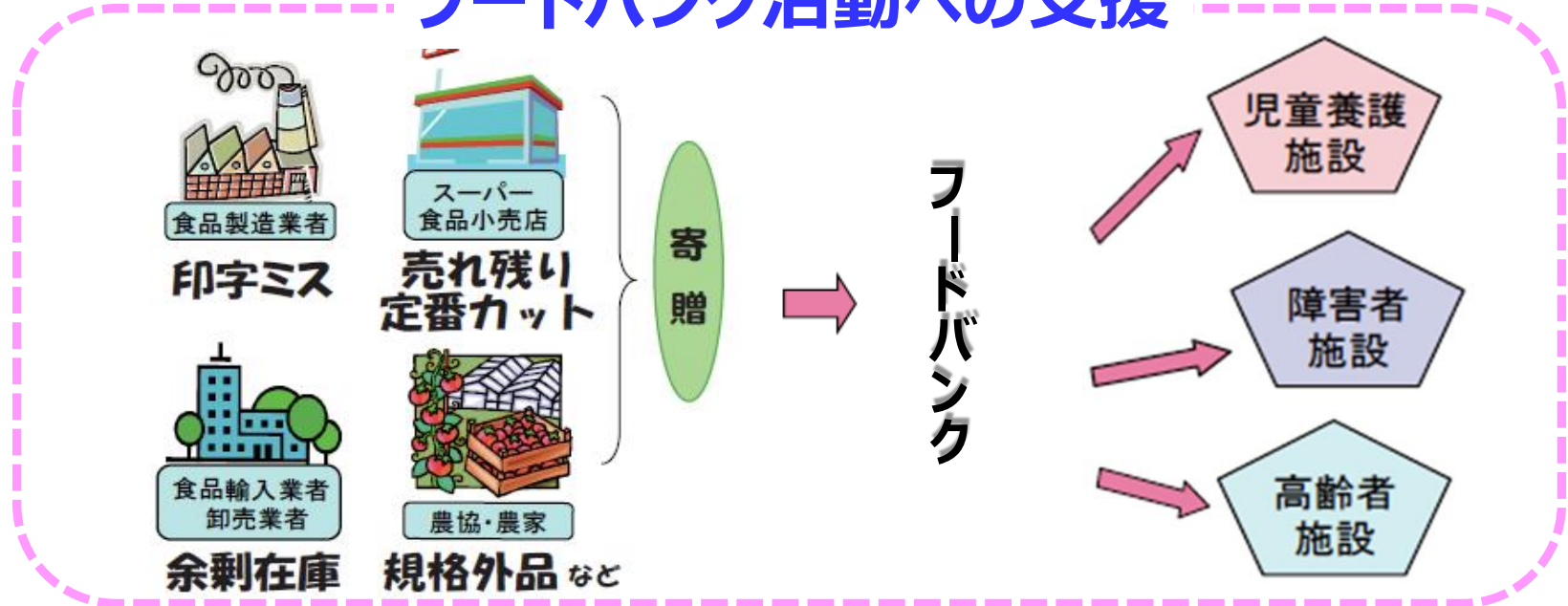
<養豚の液体飼料として>



- ・飼料の生産量は約190トン/月
 - ・委託排出量34%の削減の成果
- 飼料コスト削減、
国産飼料として
採用事例が増加



フードバンク活動への支援



4. フードロス削減に向けた課題

私たちの取り組みは、まだまだ不十分…

- 食品残渣（食資源）の有効活用策の開発
- 残渣などの発生場所⇒活用商品の利用先への物理的な距離
- より価値の高い利用策の検討
- 社内の理解と協力、社外（利用者、運搬業者など）との相互理解と信頼関係
- 消費者の理解も必要（たとえば、エシカル消費の啓発、普及）

一企業で出来ることには限りがある…

「食」のバリューチェーンに関わる皆さんと、相互連携した取り組みが必要